

一月二十八日(土)「大成功!」

受付開始十五分前、受付リーダーの小路さんが、メイク直しをしている私の元にやってきた。

「ロビーの階段の下までお客様がお並びで、劇場の外まで列ができていますので受付開始前ですが、受付を開始しますね。」

その報告を聞き、楽屋にいる誰もが「よし!」と気合をいれる。

今回は、満席でキャンセル待ちのお客様も大勢お越しになるのが事前に分かっていたので、受付リーダーの小路さん、三尾さん、望月さん、そして恒士郎という信頼の置いているリーダー達と、

本番の一週間前から何度も何度も打ち合わせを重ねてきたので、本当に安心できる。

私は心置きなく、劇団代表から役者・平野恒雄になる。

メイク済ませ、衣裳を着て、化粧前の鏡に映る「郡津健太郎」に「よろしくな!」と挨拶をしたら、鏡の中の「健太郎」は力強く微笑んでくれた。

「それでは開場しまあす」という舞台監督さんの声が廊下に響き渡ると、モニターに映る客

席が、賑やかになり始める。いつもなら、そのモニターを何気なく眺める余裕もあるのに、今回は、すぐにはモニターを見ることがせず台本を見直し、自分の台詞をチェックするが、なんだか落ち着かない。

本番開始五分前、大勢の人で埋め尽くされている客席。

観客のざわめきが聞こえる緞帳幕の中に全員集合し円陣を組む。

「本番だからって言って余計なことはせず、稽古通りにやろう!これまでの自分を信じて!仲間を信じて!」とかそんなことを私が言って、全員真ん中で手を伸ばし、「行くぞ!」「おー!」とお客様に聞こえないささやきの声で気合を入れ、いざ出陣!

「郡津健太郎」は客席前方の扉を開け、歌いながらの登場となるので、私は舞台袖を離れ扉前にスタンバイし、幕開きを待つ。一ベルが鳴り、ポイス・エマノンさんのアナウンスが入り、ニベルが鳴り、場内がゆっくり暗くなる。アマティーのピアノ演奏が始まる。

そして、ハーモニカでの「テネシーワルツ」の物悲しい音色が、会場内に響き渡ると同時に、ゆっくり緞帳幕が上がる。

冒頭のハーモニカの演奏を聴いていると、これまでのドタバタを乗り越え、無事に幕が上がったことに対し、感極まってしまっている場合ではない!そう!ここから全てが始まるのだから。

「好きにならずにいられない」の演奏が始まると、私はスイッチが入り、ピンスポットに照らされながら、満席の客席に飛び出し、芝居の世界に突入だ。どの役者も出だしから好調!やがて役者とお客様が一体となって、どんな物語が進行し、大きなミスもなくついにエンディングとなる。

本番一か月を切った時に二人の役者が降板。

その時も「大丈夫!大丈夫!」と己に言い聞かせ、メンバーが不安にならないよう常に進む方向を示し、「みんな、絶対に大丈夫だ!」と明るく振る舞うが。それでも実はすごく不安……。だけどそんなクヨクヨさを見せないように、まさに今回の「すぼつどらいと」のテーマである「頑張る精神」とみんなの明るさに励まされ、「これ以上のハプニングが起きませんように!」

と毎日祈る気持ちで劇場入りの日を迎えれば、積み込みのトラックが来ない!「神様はどこまで試練を与えてくださったれば気がすむんだ!」と思っただけれど、それでも「大丈夫!大丈夫!」と己に言い聞かせ、その困難も乗り越え、場当たり中、今まで切れたことのない懐中電灯の紐が切れたり靴の紐が切れたりとならない現象が起きてても、「絶対に大丈夫!」とずっとみんなを信じて迎えた本番が、あとはフィナーレで歌を歌えば終わる!

その最後のステージに出て行き、お客様の笑顔を見ると、もうだめ!歌えない。

涙が込み上げてきて歌えない。でもフィナーレは明るく笑顔で!ってみんなに指導してきたのだから、私がメソメソするわけにもいかないのです、声を張り上げ笑顔いっぱい、苦労を共にした全ての関係者と共に歌い上げ、今回も笑顔いっぱいのお客様に見守られ、大成功で幕を下ろすことができたのでした。ご来場いただいた皆さま、応援してくださった皆さま、本当にありがとうございました。